

茅ヶ崎セントラルクリニック 高橋富美子（調理員 / 栄養課）

功 績	院内でコロナ感染が見受けられるようになった際、組織のために自分たちが出来ることは何かを率先して考え、相談し、実行に移したことで、栄養課だけではなく、茅ヶ崎セントラルクリニック全体の安定運営に寄与した功績
推 薦 者	若林陽盛
推 薦 理 由	発案し、仲間をまとめ、これまでやったことのない業務に自ら率先してチャレンジし、成果をだしたため

内 容

高橋は2011年から茅ヶ崎セントラルクリニックの栄養課で調理員として、透析食が必要な患者さんに美味しいお食事を提供してきました。茅ヶ崎セントラルクリニックの食事は、透析食なのに美味しいという評判を育んできた第一人者です。本人も患者さんが美味しそうに食事を召し上がっているところを見て、とてもやりがいを感じていました。

ところが昨今のコロナ感染状況を鑑み、患者さんへの食事提供は一時ストップ、職員食の提供のみを継続していましたが、今年度1月後半からは院内でも感染が認められる状況になりました。

そこで高橋は、職員食も一時中止し、栄養課職員は看護助手、もしくは清掃業務にタスクシフトすることを提案、茅ヶ崎セントラルクリニックにおいて今一番何が必要かを考え、全体最適を優先し、自らが率先して看護助手業務に入ることで栄養課をまとめ、タスクシフトを誘導する役割を担ってくれました。

その後、看護師やケアワーカーを中心に感染が拡大する中、栄養課の調理員が現場に入ってシーツ交換や清潔保持などの業務に携わるようになってくれたおかげで、院内の業務はスムーズに動くようになり、主たる看護師やケアワーカーが出勤できず、人手が不足している中においても、経営に大きな影響を及ぼすことなく、クリニックの運営を継続することが出来ました。

自らの業務を絞ることなく、茅ヶ崎セントラルクリニックの運営に今一番必要なものは何かを考え続け、仲間をまとめながら、自らが率先してタスクシフトしていった姿は理事長賞に相応しいと考え、高橋を理事長賞候補に推薦させていただきます。